

平成 26 年度 北海道ブロッククラブネットワークアクション 2014

開催報告

日時： [第 1 日目] 平成 26 年 11 月 1 日（土） 12:30～17:00
[第 2 日目] 平成 26 年 11 月 2 日（日） 09:00～12:00

会場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

内容：

[1 日目]

- 開会行事
- 講演「ドイツに見るスポーツクラブと社会公益性」「ドイツを訪問して」
- 日本体育協会からの情報提供
- ショートパネルディスカッション「地域に愛されるクラブを目指して～SCによる地域支援～」
- グループディスカッション「地域に愛されるクラブを目指して」

[2 日目]

- 講演「長続きするクラブ～ドイツのクラブのように 100 年以上歴史を重ねられるのか？～」
- ショートパネルディスカッション「創造と継続の課題」
- グループディスカッション「長続きするクラブを目指して」
- まとめ、閉会行事

【概要】

- ・ テーマや内容は実行委員会で決めましたが、総合型地域スポーツクラブ北海道ネット役員の見解も参考にしました。
- ・ 全体テーマを一日目『地域に愛されるクラブを目指して』、二日目『長続きするクラブ』としたのは、スポーツ基本法施行後に標榜されている「地域の課題解決に役立つクラブを目指す」視点から、地域に根差し愛される存在になるにはどうすべきかを、さまざまな切り口で考え、多様な意見の中からクラブの自立（自律）につながるヒントを見出すためです。
- ・ 約 100 人の参加者は講演やパネルディスカッションを通して各テーマへの理解を深め、議論を通じて自らのクラブを見つめ直していたように感じました。
- ・ 北海道ブロック各クラブのリーダーは、年齢や男女のバランスが良く、積極的に発言される方が多いこともあり、意見交換は有意義なものとなり、他クラブの現状を垣間見ながら、自クラブの立ち位置を再認識するきっかけになったようです。
- ・ 同アクションは北海道内各クラブの交流機会としても意義深いものでした。

[1 日目]

【講演について】

北海道教育大学岩見沢校教授の山本理人さんが「ドイツに見るクラブの公益性」を題に講演。ドイツのスポーツクラブ事情を分かりやすく解説してくれました。

山本さんはドイツの国柄について①地域主権②政治は援助せずも支配せず、などと説明。スポーツクラブは古い歴史と伝統を持ち、クラブ員は理念を共有、ボランティア精神にあふれ、民主的手続きで意思決定しているとしました。

また、市民に開かれたクラブで共益から公益に向かっているが、クラブの分極化と会員の多様化が課題になっていると解説しました。

続いて公益財団法人日本体育協会クラブマネジメント指導者海外研修事業で今年 10 月にドイツに派遣されたクラブアドバイザーの久保田智さんが「ドイツを訪問して」を題に講演。目で見て肌で感じたドイツのスポーツクラブの現状を、自らの感想を交えて語りました。

久保田さんはパワーポイントの写真をふんだんに使いながら、ドイツも少子高齢化が進み、学力低下で学校の授業時間が延び、子どもたちがクラブにかかわりづらくなっているなど、「日本とドイツそれぞれ共通する課題があり、ドイツに見習うべき点はたくさんあったが、日本のクラブも捨てたもんじゃない」と話しました。



【ショートパネルディスカッションについて】

「地域に愛されるクラブを目指して」をメインテーマ、「SCによる地域支援」をサブテーマとしたショートパネルディスカッションは①社会福祉②環境教育③教育支援にかかわる3クラブの代表者が、それぞれの活動事例を紹介。今後の目標を熱く語ってくれました。

①社会福祉と連携している向田久美さん（石狩市SCアクト）は「人間力のある人を育てるため、子どもの体力向上、介護予防、生活習慣病予防それぞれに貢献したい」と夢を語りました。

②環境教育を推進している加藤康大さん（地遊クラブジョイ）は「野外活動体験には学びの要素を入れている。子どもたちが自分の力で克服できるよう、あえて手伝わない。ニーズはあり合宿の受け入れを増やしたい」と目標を語りました。

③教育委員会と連携している旭由紀夫さん（よりづか☆ちよいスポ倶楽部）は「キッズスポーツ塾は人気で回数を増やした。今後は体力テストの手伝いと貯筋運動を推進したい」と事業の拡大に前向きな意見を述べられました。



【グループディスカッションについて】

ショートパネルディスカッション同様「地域に愛されるクラブを目指して」をテーマにしました。過去の研修の反省から「小グループで具体的に話せる場」として、5～6人の16グループで話し合いました。

こうした場は人の話を聞くチャンスでもあり、現実的なテーマであれば横道にそれでもよいとしました。少人数のため、どのグループも活発な意見交換が行われていました。

「地域ぐるみでコーディネーションとレーニングをやる」とい、「スポーツ婚活は地域のニーズにあう」「行政とのかかわりは欠かせない」「町内会と連携し文化的な内容も取り入れてはどうか」などの意見が出されていました。

【2日目】

【講演について】

新町スポーツクラブのチーフマネジャー小出利一さんが「長続きするクラブ」を題に、自クラブの活動内容を紹介しながら、長続きするための条件などにアドバイスを与えてくれました。

新町クラブはスポーツ少年団から派生したため、最初に、日本におけるスポーツ少年団の成り立ちを詳しく解説。同クラブが長年続けているドイツ研修の経験や成果を披露しながら、長続きするクラブの条件を①人材育成②信頼③連携④財政基盤などとししました。

人材育成では少年団の育成システムを参考に、中学生らのジュニアリーダー、高校生、大学生のシニアリーダーを育て、いずれクラブの指導者になる仕組みの重要性を熱く語りました。

また、総合型地域スポーツクラブの課題解決のため、日本体育協会の育成プラン2013を活用したクラブの質の向上を促しました。



【ショートパネルディスカッションについて】

「創造と継続の課題」を題に設立間もない2クラブの事例から課題解決の方策を探りました。

わくわくピース総合型クラブの矢端栄さんは「PTAの主婦が集まって立ち上げた。人集めに苦労した。助成金の申請書類づくりに四苦八苦。試行錯誤、暗中模索。生みの苦しみを味わった」と、クラブづくりの大変さを語りました。

真駒内スポーツコミュニティークラブの二川瑞穂さんは「行政や学校との連携がなく、苦労している。クラブマネジャーの転出は痛手だったが、課題が見え、どうにか手ごたえを感じるようになった。まずは認知度向上を目指したい」と前向きに話されました。

講師の小出利一さんから「何かを作り出すには自分の地域を知ることが需要。総合型地域スポーツクラブのネットワークを課題解決の糸口にしてほしい」とアドバイスをいただきました。



【グループディスカッションについて】

前日同様、少人数グループで「長続きするクラブを目指して」を題に話し合いました。前のプログラムの時間が押し、話し合い時間が20分ほどしかなく深い議論はできませんでしたが、参加者たちは他クラブの活動事例に耳を傾け、課題解決のヒントを探っていました。

「次世代の人材育成を今から始めよ」「クラブのターゲットはだれかを見極め、効果的なプログラムをつくらなくては長続きしない」「ビジネス感覚をもとう」などの意見が出されました。



【まとめ】

北海道ブロックは「理想論でなく現実論」でプログラムを決め、参加者が「来てよかった」と思ってくれる運営を目指してきました。今回は「地域連携」などをキーワードに有意義な意見交換ができたと感じておりますが、アンケートには不満の声もあり反省材料となりました。

開会に先立ち、育成プラン2013の実行について意向確認したところ、参加者の8割以上が「やってほしい」と答えたメニューが複数あり、北海道モデルとして検討することになり、一定の成果を得ました。

加えて講師の小出さんから「北海道は年齢、男女比ともバランスが良く、意見交換も活発。先駆的な活動を展開してください」とエールが送られ、意を強くすることができました。

北海道ブロッククラブネットワークアクション2014

実行委員長 伊端 隆康